

平成9年11月19日

12月1日、染井吉野発祥の地・駒込に 「染井吉野桜記念公園」オープン

桜といえば、ソメイヨシノ。この発祥の地が、豊島区の駒込であることを御存じだろうか。

来たる12月1日、駒込駅北口前に、「染井吉野桜記念公園」がオープンする。

この公園は、「ソメイヨシノでふる里づくり」を合言葉に、駒込地区の有志により、昭和63年に発足した「染井吉野桜記念公園を作る会」の長年の運動と要望が実ったもの。

* * *

現在の駒込3丁目～7丁目あたりは、江戸時代駒込染井と呼ばれ、園芸草花や植木の一大生産地であった。そこから、数多くの優れた園芸品種が生み出されたが、中でも当時の地名から名付けられたソメイヨシノは、日本を代表する桜の品種として有名である。

ソメイヨシノは、明治期に、染井の地から全国に広まったもので、オオシマザクラとエドヒガンの雑種説が、有力である。しかし染井の植木屋が人工交配によって作り出したのか、その庭で自然交配して生まれたのか、あるいは、どこかで自生していたものを、植木屋がもってきたのかは、諸説あり、未だ明らかになっておらず、謎である。

いずれにせよ、明治期に整えられた桜の名所の多くは駒込から供給されたソメイヨシノの苗木を集団的に植えて作られたものであった。

昭和48（1973）年、豊島区とのつながりが深いことから、区の木に制定されている。

* * *

染井吉野桜記念公園は、駒込に伝わるこのような植木の里としての歴史を記念するとともに駅前広場公園としてのにぎわい場を創出するものである。

公園のテーマは、ずばり、染井吉野。

園内には、6本のソメイヨシノをはじめ、その交配のもとになったとされるオオシマザクラ、エドヒガンなどの桜の木が植えられ、来春の開花を待っている。

また、ソメイヨシノを生んだ植木の里としての歴史を日英併記で記し、『絵本江戸桜』に描かれた「染井之植木屋」の絵を添えて紹介した記念碑が建てられている。淡いピンクの桜御影石製。

所在地は、駒込2丁目2番（面積約984.5m²・駒込駅北口前・徒歩1分）。

公園の地下は、自転車駐輪場として8月にオープン。地上には桜を愛でた憩いの空間、地下には、街の美観を支える駐輪スペースと、敷地を有効活用している。

公園緑地課では、「この公園から、染井吉野の発祥の地・駒込を、世界に広めていければ」と期待している。

なお、オープンに先立ち、染井吉野桜記念公園を作る会の主催で、11月30日(日)午前10時30分～12時、染井吉野桜記念公園で、落成祝賀会が開かれる。記念植樹、記念碑除幕、公園説明などが行われる予定。

詳細： 公園緑地課長 交通対策課長